

トゲ
tOVO
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 3

鶴田駅
Tsuruda Station



NO. 026
20140511

あぶらぎの100家族、おたけまのふゆ旅



www.tovo2011.com



インタビュー

今号のご家族 ▶ 太田 恒清さん・絵里子さん・紗愛ちゃん・琉清くん・真乃華ちゃん
さら りゅうせい まの が

撮影場所 ▶ 陸奥鶴田駅舎(鶴田町)

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶ 絵里子さん「友人の家でテレビをみてました(笑) 揺れだしたと思ったらテレビがいきなり消えて、その時は何が起きてるのか状況が分からなかったし、ちょっと長いな~と思ったくらいでした。でも、家に帰ろうと外に出て、信号が止まっているのを見て、コンビニにも車が普段だとあり得ないくらいいっぱい止まっているし、外に出てからやっと、ちょっとヤバイかもって気持ちになりました。当時は琉清もまだ生まれてなくて、紗愛は保育園に行っていましたね。紗愛のお迎えは、普通の時間に行きました…(笑) 紗愛は地震の日のこと憶えてる？」

▶ 紗愛ちゃん「地震ってどういうものか、よく分かってなかったから、揺れてるのに気付かなかった!遊んでたら急に先生がホールに椅子を並べて『座ってて』って言って、お菓子持ったまま座って、ママが来るの待ってたよ。帰るまで地震って分かんなかった!」

▶ 絵里子さん「えー!(笑)」 ▶ 恒清さん「地震あった時は、鯉ヶ沢の海ばたで仕事をして、町内放送が流れて、津波が来るかもしれないって、丘の上の小学校に避難しましたね。鯉ヶ沢は反対方向だったから津波は大丈夫だったんですけど。家族と連絡はすぐにはとれなかったけど、その後なんとか合流しました。小学校には他の住民の人もいっぱいいて、何がどうなってるかは分からなかったですね。後で津波の映像見た時は、あーヤバイなって怖かったです。」

●その日の夜はどう過ごしましたか？

▶ 絵里子さん「家が建てたばかりのオール電化だったので、全部止まりましたね~。トイレも入れなくて!実家が

車で5分の近所なので、トイレはそっちに借りに行っていました。病院が近くて実家は電気が戻るのも早かったので、シャワーも借りたり…。ホント助かりました。灯りはロウソクでしたね。」 ▶ 紗愛ちゃん「カップラーメン食べたよ。あとご飯も食べたよね?」 ▶ 恒清さん「母親に教えてもらって、ガスコンロでフライパンでご飯を炊いたりとか、だるまストーブでお湯沸かしたりしました。」

●震災後、何か変わりましたか？

▶ 絵里子さん「特別何をしたってわけでもないんですけど。震災がある前は、例えば料理の手伝いで包丁持たせたりするの、紗愛はまだ小さいし危ないからってやらせてなかったんですよ。でも、あの体験があってからは、もし自分に何かあった時、子どもたちが困らないように教えておけることは教えておくようにしました。今伝えられることをきちんと伝えて、ちっちゃくてまだ理解できないかもしれないけど、大きくなって何かの時に、あの時しゃべってたのは、この事かって分かってくれるかなって思います。そういうふうになら、今を楽しむ!っていうのを今まで以上に意識していこうって思いました。」

●10年後のイメージは？

▶ 絵里子さん「あんまり想像できないけど…(笑)大変な事とか辛い事とかがあっても、お互いに一番支えになれるように、そういう感じでいたいなあとと思いますね~。」 ▶ 恒清さん「うん、とりあえず皆で笑っていたいと思う。笑顔をやささない家族がいいな。」 ▶ 絵里子さん「紗愛は~将来の夢は?」 ▶ 紗愛ちゃん「うーん、刑事!」 ▶ 絵里子さん「えー!(笑)それドラマ見たからでしょ!ホントに!?(笑)」 ▶ 紗愛ちゃん「すーごいホント!(笑)」 **終**

定期購読のご協力をお願いします

1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金)/1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール (info@tovo2011.com)にてお申し込みください。

編集後記

鶴田町在住で鶴田の街づくりプロジェクトに所属する絵里子さん。このたび希望された撮影場所の陸奥鶴田駅について、駅舎がきれいがかっこよくて好き!との言葉に熱い地元愛を感じました(笑)tovoの活動もそうですが、自分が生まれた場所から、自分ができるところをして、何かを伝えよう、そこから何かに繋げよう、続けようという意識、大切にしたいです【坂本小雪】

東日本大地震・津波遺児チャリティ



2011年6月~2014年4月30日まで

¥2,365,140

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶太田 恒清さん・絵里子さん・紗愛ちゃん・琉清くん・真乃華ちゃん

撮影場所▶陸奥鶴田駅舎(鶴田町)

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶絵里子さん「友人の家でテレビを観てました(笑) 揺れだしたと思ったらテレビがいきなり消えて、その時は何が起きてるのか状況が分からなかったし、ちょっと長いな~と思ったくらいでした。でも、家に帰ろうと

外に出て、信号が止まっているのを見て、コンビニにも車が普段だとあり得ないくらいいっぱい止まっているし、外に出てからやっと、ちょっとヤバイかもって気持ちになりました。当時は琉清もまだ生まれてなくて、紗愛は保育園に行っていましたね。紗愛のお迎えは、普通の時間に行きました...(笑) 紗愛は地震の日のこと憶えてる？」

▶紗愛ちゃん「地震ってどういうものか、よく分かってなかったから、揺れているのに気付かなかった！遊んでたら急に先生がホールに椅子を並べて『座ってて』って言って、お菓子持ったまま座って、ママが来るのを待ってたよ。帰るまで地震って分かんなかった！」

▶絵里子さん「えー！(笑)」

▶恒清さん「地震あった時は、鱈ヶ沢の海ばたで仕事をしてて、町内放送が流れて、津波が来るかもしれないって、丘の上の小学校に避難しましたね。鱈ヶ沢は反対方向だったから津波は大丈夫だったんですけど。家族と連絡はすぐにはとれなかったけど、その後なんとか合流しました。小学校には他の住民の人もいっぱいいて、何がどうなってるかは分からなかったですね。後で津波の映像観た時は、あーヤバイなって怖かったです。」

●その日の夜はどう過ごしましたか？

▶絵里子さん「家が建てたばかりのオール電化だったので、全部止まりましたね~。トイレも入れなくて！実家が車で5分の近所なので、トイレはそっちに借りに行っていました。病院が近くて実家は電気が戻るのも早かったので、シャワーも借りたり...。ホント助かりました。灯りはロウソクでしたね。」

▶紗愛ちゃん「カップラーメン食べたよ。あとご飯も食べたよね？」

▶恒清さん「母親に教えてもらって、ガスコンロでフライパンでご飯を炊いたりとか、だるまストーブでお湯沸かしたりしました。」

●震災後、何か変わりましたか？

▶絵里子さん「特別何をしたってわけでもないんですけど。震災がある前は、例えば料理の手伝いで包丁持たせたりするの、紗愛はまだ小さいし危ないからってやらせてなかったんですよ。でも

、あの体験があつてからは、もし自分に何かあつた時、子どもたちが困らないように教えておけることは教えておくようにしました。今伝えられることをきちんと伝えて、ちっちゃくてまだ理解できないかもしれないけど、大きくなって何かの時に、あの時しゃべつてたのは、この事かつて分かつてくれるかなつて思います。そういうふうになつながら、今を楽しむ！つていうのを今まで以上に意識していこうつて思いました。」

●10年後のイメージは？

▶絵里子さん「あんまり想像できないけど...(笑)大変な事とか辛い事とかがあつても、お互いに一番支えになれるように、そういう感じでいたいなあとと思いますね〜。」

▶恒清さん「うん、とりあえず皆で笑つていたいと思う。笑顔を絶やさない家族がいいな。」

▶絵里子さん「紗愛は〜将来の夢は？」

▶紗愛ちゃん「うーん、刑事！」

▶絵里子さん「えー！(笑)それドラマ観たからでしょ！ホントに！？(笑)」

▶紗愛ちゃん「すごいホント！(笑)」

【編集後記】

鶴田町在住で鶴田の街づくりプロジェクトに所属する絵里子さん。このたび希望された撮影場所の陸奥鶴田駅についても、駅舎がきれいがかっこよくて好き！との言葉に熱い地元愛を感じました(笑)tovoの活動もそうですが、自分が生まれた場所から、自分ができることをして、何かを伝えよう、そこから何かに繋げよう、続けようという意識、大切にしたいです【坂本小雪】

【寄付総額】

2011年6月～2014年4月30日まで、「¥2,365,140」を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。